



~ 平成 22 年度 前橋市自然環境基礎調査（富士見地区）報告書 概要版 ~



平成 23 年 3 月
前橋市

調査の目的

前橋市は、赤城南麓に代表される豊かな森林、利根川や広瀬川をはじめとする大小多数の河川、農地や公園などの自然的な空間など、様々な環境をもつ美しい緑豊かなまちです。

しかし、私たち人間の生活様式の変化などにより、植物や動物が生育・生息する環境は失われつつあり、昔は当たり前に見られた生き物が見られなくなったり、逆に昔はいなかった生き物が新たに出現するなどの変化が出てきます。

生き物を継続的に調査し、情報を蓄積することで、人間の目だけではなく、これらの環境の中で実際に生活している“生き物の視点”から環境の変化を捉えることができます。

前橋市では、市内で見られる動植物（植物、鳥類、哺乳類・は虫類・両生類、魚類・水生生物、昆虫）の一斉調査として「自然環境基礎調査」を行い、その後も分野別の追跡調査として「自然環境調査」を続けることで自然環境の変化を見守っています。

今年度は、平成21年5月に合併した富士見地区で生息する動植物を対象とした「自然環境基礎調査」を行いました。

これからも、私たちが受け継いできた前橋市の自然を大切にしていきましょう。

富士見地区について

富士見地区は、群馬県の中央部、赤城山の山頂から中腹にかけて位置し、東西約6km、南北約19kmという細長い形をしています。

面積は 70.42 km^2 で、標高は赤城山(黒檜山)の1,828mから南西端の140mと、高低差が大きいのも特徴のひとつです。

北半分はほとんどが山林ですが、南半分は穏やかな傾斜の丘陵が広がり、主要道路を中心に、都市化が進んでいます。

今回実施した「自然環境基礎調査」では、合併前の前橋市で調査した24地点に加え、富士見地区から新たに3つの場所を選び、生息する動植物の種類などを調べました。



【調査を行った場所】

地点 No.	場所	代表的な水域
No. 25	赤城大沼周辺	赤城大沼
No. 26	県立赤城森林公園周辺	赤城白川
No. 27	ザゼンソウ群生地周辺	こまかざわ 細ヶ沢川



調査の方法

今回の調査では、下記の調査を実施しました。

調査項目	調査時期									調査方法
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
現地調査	植物									調査地点に生息する動植物について、種数などを確認するための現地調査を行いました。
	鳥類									【調査結果】 植物（126科900種） 鳥類（26科51種） 魚類（4科6種） 水生生物（61科86種） 哺乳類（12科18種） は虫類（3科7種） 両生類（5科8種） 昆虫（289科1,362種） 水辺の景観（毎月同じ地点から写真撮影し、季節の移り変わりを記録しました。）
	魚類									
	水生生物									
	哺乳類									
	は虫類									
	両生類									
	昆虫									
	水辺の景観									
既存文献調査										富士見地区に関する資料を調べ、動植物の記録を整理しました。
有識者ヒアリング										各分野の専門家から、富士見地区の動植物について聞き取り調査を行いました。
自然観察会										赤城山山頂付近で、植物を中心とした動植物を観察するイベントを開催しました。

過去の調査実績や有識者のアドバイスから調査に適した季節を選び、各季節につき数日程度の現地調査を行いました。

富士見地区は南北で1,000m以上の標高差があることから、各地点の気候を考慮した日程で現地調査を行いました。

【調査方法の例】



植物調査（植物相調査）



鳥類調査（ラインセンサス法）



魚類調査（投網）



水生生物調査（タモ網）



哺乳類調査（夜間調査）



は虫類・両生類調査（踏査）



昆虫調査（スワイーピング法）



水環境調査（流速測定）



自然観察会（観満淵）

赤城大沼周辺(No. 25)の自然

赤城山山頂部にある赤城大沼の湖畔に沿ったルートで調査を行いました。

周辺の植生はミズナラを主とした落葉広葉樹林ですが、湖岸部は赤城神社や宿泊施設等、人の手が入った場所も多く見られます。また、一部の禁漁区を除き釣り場としても利用され、冬季には凍結した湖面上で「ワカサギの穴釣り」が楽しめる場所としても知られています。



赤城大沼

【赤城大沼周辺の調査結果】

分野	確認種数	確認された生物
植物	89科434種	アカギキンポウゲ・イトイバラモ・オタカラコウ・ニッコウキスゲ・バイケイソウ・ホトトギスなど
鳥類	20科33種	アカハラ・イワツバメ・オオアカゲラ・スズガモ・キビタキ・ゴジュウカラ・フクロウなど
魚類	4科5種	イワナ・ウグイ・カラドジョウ・コイ・トウヨシノボリ
水生生物	20科22種	オオヤマトンボ・コヤマトンボ・サワヨコエビ属・スジエビ・ヌカエビ・モノアラガイなど
哺乳類	11科15種	イノシシ・キクガシラコウモリ・キツネ・タヌキ・ツキノワグマ・ニホンジカ・ヒミズなど
は虫類	2科4種	アオダイショウ・カナヘビ・ジムグリ・ヤマカガシ
両生類	4科6種	アズマヒキガエル・シュレーゲルアオガエル・ツチガエル・ニホンアカガエル・ハコネサンショウウオ・ヤマアカガエル
昆虫	183科560種	オオトラフハナムグリ・コルリクワガタ・トウヨウモンカゲロウ・ヒオドシチョウ・ミズカゲロウなど





県立赤城森林公園周辺(No. 26)の自然

県立赤城森林公園(ふれあいの森)とその周辺で調査を行いました。植生としては、広葉樹林が主で、調査範囲のほぼ中央を流れる赤城白川に沿ってサワグルミ等の渓畔林があります。今回調査した中では、最も多様な環境要素をもつ地点で、とても多くの生物種が確認されました。



赤城白川(「ふれあいの橋」から上流方向)

【県立赤城森林公園周辺の調査結果】

分野	確認種数	確認された生物
植物	105科 570種	ウスバサイシン・カタクリ・キヨスミウツボ・ナツノタムラソウなど
鳥類	19科 35種	アオバト・カシラダカ・カワガラス・コガラ・ノジコ・ハイタカ・ハヤブサ・ミヤマホオジロなど
魚類	1科 2種	イワナ・ヤマメ
水生生物	42科 60種	ウエノヒラタカゲロウ・ノギカワゲラ・ヒメアミカ・ヘビトンボ・ムラサキトビケラなど
哺乳類	11科 14種	アズマモグラ・イタチ科・イノシシ・ニホンジカ・ニホンリス・ムササビなど
は虫類	3科 5種	アオダイショウ・カナヘビ・シロマダラ・トカゲ(ニホントカゲ)・ヤマカガシ
両生類	2科 3種	アズマヒキガエル・タゴガエル・ヤマアカガエル
昆虫	204科 695種	アサヒナカワトンボ・オオアメンボ・キカマキリモドキ・ゴマダラオトシブミ・ミヤマクワガタなど



カナヘビ



トカゲ(ニホントカゲ)

フデリンドウ



ザゼンソウ群生地周辺(No. 27)の自然

市の天然記念物である「沼の窪ザゼンソウ群生地」周辺で調査を行いました。

管理の行き届いたスギやヒノキの植林が大部分を占め、中央には細ヶ沢川が流れています。

流れの速い渓流独特の環境によるものか、魚類は確認されませんでしたが、カエルの仲間が繁殖場所としていることが確認されました。



細ヶ沢川（ザゼンソウ群生地付近）

【ザゼンソウ群生地周辺の調査結果】

分野	確認種数	確認された生物
植物	98科 528種	ウスジロカントウタンポポ・コバギボウシ・ザゼンソウ・セリ・ミゾホオズキ・ニリンソウなど
鳥類	17科 26種	アオゲラ・カワラヒワ・キクイタダキ・ヒヨドリ・ミソサザイ・モズ・カオジロガビチョウ（外来種）など
魚類	0科 0種	今回の調査では、確認できませんでした。
水生生物	35科 41種	カワニナ・サワガニ・ウルマーシマトビケラ・マルタニシ・ミルンヤンマ・ヨツメトビケラなど
哺乳類	10科 15種	アカネズミ・アズマモグラ・キツネ・ニホンジカ・ノウサギ・ハタネズミなど
は虫類	3科 6種	アオダイショウ・カナヘビ・シマヘビ・ジムグリ・トカゲ・ヤマカガシ
両生類	4科 6種	アズマヒキガエル・アマガエル・シュレーゲルアオガエル・タゴガエル・ニホンアカガエル・ヤマアカガエル
昆虫	200科 611種	エダナナフシ・エンマコオロギ・オナガアゲハ・カブトムシ・ゲンジボタル・シオヤトンボなど





富士見地区で見られる貴重な生き物

現地調査の結果、環境省や群馬県などで絶滅のおそれがある貴重な生き物（重要種）として位置づけられているものが多く確認されています。

この中には、本来は身近に生息していたはずなのに、最近ではとても珍しい種になってしまったという例も少なくありません。

私たち人類をはじめとする生物は、お互いが微妙なバランスを取りながら成り立っているため、このような種の生息状況についても注意する必要があります。

【今回の調査で確認された重要種】

分野	重要種数	調査で確認された主な重要種
植物	11科 11種	イトイバラモ・ザゼンソウなど
鳥類	6科 6種	ハイタカ・ハヤブサ・アオバト・フクロウ・オオアカゲラ・ノジコ
魚類	0科 0種	今回の調査では、確認されませんでした。
水生生物	11科 11種	ナミウズムシ・モノアラガイ・サワガニ・スジエビ・ノギカラゲラなど
哺乳類	3科 3種	イタチ科・ツキノワグマ・ムササビ
は虫類	1科 1種	シロマダラ
両生類	2科 4種	タゴガエル・ニホンアカガエル・ツチガエル・シュレーゲルアオガエル
昆虫	16科 16種	ケラ・ヤスマツトビナナフシ・キベリタテハ・クロカナブン・ニホンミツバチなど

注

環境省：「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」平成18～19年

群馬県：「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編」（平成13年1月 群馬県環境生活部自然環境課編集）

「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編」（平成14年2月 群馬県環境生活部自然環境課編集）

9・10ページで紹介する野鳥（重要種）の写真は、「日本野鳥の会 群馬」から提供いただきました。



ザゼンソウ

「沼の窪のザゼンソウ」は
市の天然記念物です。



イトイバラモ

環境省：絶滅危惧 B類
群馬県：該当なし



ハヤブサ

環境省：絶滅危惧 類
群馬県：注目
「種の保存法」で定める
国内希少野生動植物種



アオバト

環境省：該当なし
群馬県：注目



ノジコ

環境省：準絶滅危惧
群馬県：注目



フクロウ

環境省：該当なし
群馬県：準絶滅危惧



ヌカエビ

環境省：該当なし
群馬県：注目



マルタニシ

環境省：準絶滅危惧
群馬県：準絶滅危惧



サワガニ

環境省：該当なし
群馬県：準絶滅危惧



ツキノワグマ(写真は足跡)

環境省：該当なし
群馬県：注目



ツチガエル

環境省：該当なし
群馬県：注目



ニホンアカガエル

環境省：該当なし
群馬県：絶滅危惧 類



シュレーゲルアオガエル

環境省：該当なし
群馬県：注目



アサヒナカワトンボ

環境省：該当なし
群馬県：絶滅危惧 類



ゲンジボタル

環境省：該当なし
群馬県：絶滅危惧 類

自然観察会

赤城山山頂付近で見られる動植物を対象とした自然観察会を開催しました。

市内外から多くの申込みがあり、夏の爽やかな空気を味わいながら、講師の解説により様々な動植物を観察し、赤城山の雄大な自然を満喫することができました。

【開催結果】

行事名：自然観察会 赤城の自然に触れ合おう！

日 時：平成 22 年 7 月 25 日（日）
午前 10 時から 12 時 30 分まで

場 所：覚満淵から鳥居峠を巡るコース

参加者：64 名（市外からの参加者 27 名を含む）



覚満淵



観察会の様子

【参加者の声】

赤城山には、こんなに色々な植物があったことを知らなかったので、赤城山の自然観察会に来ることができて良かったです。

近くにこんなに自然豊かな所があるとは知りませんでした。もっとみんなに知ってほしい。

いつも赤城山を眺めていたが、山頂に来てみると、とても良いことに気づきました。
四季を通じて来てみたい。

前橋市役所環境部環境課

住 所 〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目 12 番 1 号
電 話 027-224-1111

この報告書は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。
写真・イラスト等の無断転用を禁止します。